

稀な形態を示した乳癌の一例

博愛会病院 放射線技術科

○下崎大介 坪内隆将 嶋田由利子 福井隆司 高木達也 藪下正義 乾 雅博

【症例】86歳、女性。主訴は左乳房腫瘍。現病歴は約2年前より左乳房に腫瘍を触知していたが放置。本年6月に家族に同腫瘍を指摘され来院した。【MMG】左乳腺に巨大な高濃度腫瘍が確認。また一部石灰化も確認出来た。【US】同部に12.8×11.3×10.8mmの巨大な腫瘍性病変を認めた。内部は液状物に満たされており、腫瘍内には隔壁構造が確認でき、一部カリフラワー様の腫瘍構造が確認できた。同部よりドプラにて強い血流信号が確認できた。【MRI】T2WI・T1WIともに、内部はほぼ均一な高信号を呈し、T2WIでは一部液面形成の所見も確認出来た。拡散強調画像では乳頭状の充実性部分は高信号を呈した。ダイナミックMRIでは、乳頭状の充実性部分は早期より強い濃染が観察でき、ダイナミックカーブでも悪性を示唆するパターンを示した。画像診断では、以上より粘液癌が示唆され、手術となった。【病理】腫瘍内は暗赤褐色調の液状物で満たされ、同内容液の粘調性は低い。腫瘍は巨大な嚢胞性構造を形成し、全体の殆どは単房性で、一部不完全な隔壁様構造を伴っていた。腫瘍性上皮成分の増殖。その腺管癒合ないし、篩状構造を伴う形状不整、細胞の核異型度、あるいは核分裂像などから悪性は間違いないと考えられた。その他肉眼的所見・性状などよりcystic hypersecretory carcinomaと診断された。【考察】今回の自験例の特徴的画像所見は必ずしも、CHCの有意な所見とは言いがたいが、悪性を示唆するに十分な所見として考えられ有効な画像診断であった。CHCは稀な乳癌の特殊型であるが、今回のように病理診断は困難なことが多く、更なる症例の集積による検討が望まれる。